

㊦ (小計 55点)

問一 (8点) 父が殺した黒牛の首を見せることで、マノロも父と同じようにカスタロン二世とのたたかいに勝つことを期待している。

問二 (9点) 父と同じ闘牛士になることを期待されていることが心の負担になっていたが、カステイリーヨの言葉によって、自分で自分の進む道を決めてよいのだと心が軽くなった。

問三 (10点) 実際に闘牛に挑戦してうまくいかなかったので、自分は父のようなりっぱな闘牛士になれないことがわかり、闘牛士になりたくないという気持ちをみなにはつきりと言おうと覚悟している。

問四 (10点) 闘牛場の上にすばらしいたたかいが展開されているのに、自分が闘牛士として、その闘牛場に立っていないという悲しみ。

問五 (18点) マノロは自分の気持ちに従い、りっぱな闘牛士の息子であることをほこりに思いながら、医者という道を通じて闘牛に関わり続けることを決意したということ。

㊦ (小計 35点)

問一 (10点) わずか十七音からなる短詩型であるため、俳句はなまけものの文芸と言われるが、作り手には、伝統的な季語を用いて、繰り返し推敲するなどの多くの努力が必要であるということ。

問二 (10点) 世間では蔵を売るほど貧しくなることはつらいことだと考えるが、瓢水は蔵を売ったことで、目当たりがよくなり牡丹を楽しめるようになったと考えていること。

問三 (15点) 人生の整理は忘れられないものを基礎にして、もう一度新しい生き方を模索することであるが、俳句もまた、過去を振り返らずに今の時点で面白いと感じたものを句にしていく点が同じだと考えている。

㊦ (小計 10点)

- (2点×5) (1) 異口 (2) 交易 (3) 盟友 (4) 試金石 (5) 看破

問題本文は、著作権の関係で本日は配布しません。
なお、出典は次の通りです。
㊦ マヤ・ヴォイチェホフスカ著 渡辺茂男訳 『闘牛の影』
㊦ 『くりま文藝春秋増刊 5月号』所収
外山滋比古の文章より